



人が育つ場所

森田 悠介 MORITA Yusuke

総務大臣秘書官

これまでのキャリアをふりかえて

今までの経験が積み重なって今の私があるということを、改めて実感しています。と同時に、自分1人の力でここまでこられたわけではないということも、強く感じるところです。それぞれのポストにおいて手本となる先輩や頼りになる後輩に恵まれたこと。人事担当が、職員1人1人の適性を踏まえた配置をしてくれたこと。そして、面白い仕事があること。私のキャリアにおいて、これらの要素が大きな手助けとなったことは間違いありません。

働く場所に何を求めるのか、何にやりがいを感じるのかは人それぞれですが、キャリアを考える上で、働く場所の環境や職員のカラーは重要な要素の1つではないでしょうか。少なくとも、環境や人柄という面においては、総務省は間違いのない選択だと思います。



週末はラグビースクールでコーチをしています。



北京赴任中は家族と色々な所遊びに行きました。

2024～現在 総務大臣秘書官

大臣をお支えすることが仕事です。各部局との調整や資料作成など、やるべきことは多岐に及びますが、今まで培った知見をフル活用しつつ、大臣の頭の中を想像しながら行うように努めています。

2019～2024 内閣官房内閣人事局参事官補佐(内閣官房・内閣府・総務省担当) 総務省大臣官房総務課課長補佐(総括国会・防災調整) 内閣官房内閣人事局参事官補佐(総括) 内閣府公益認定等委員会事務局企画官

相手との折衝を要する機構定員の審査、総務省全体の国会の総括、政治的な案件の処理、新しい制度の施行に向けた民間事業者との調整など、これまでよりも高度な調整を行う機会を得ることができました。マネジメントについても、組織の仕事を円滑に進めることだけでなく、職員自身が楽しめているかどうかを考えるようにしていました。

2016～2019 外務省在中国日本国大使館広報文化部一等書記官

民間交流や自治体交流の担当でした。当時はコロナ前で日中間の交流も盛んでしたが、ちょうど息子が生まれたタイミングで、育児休暇を取得した妻とともに家族で赴任しており、私にとって北京は、子育ての思い出の地です。

2012～2016 国家公務員制度改革推進本部事務局参事官補佐(総括) 内閣官房内閣人事局参事官補佐(退職手当担当)

内閣人事局の設置等を内容とする、国家公務員法等の改正を行いました。与党、野党、各省庁など各方面から多くのご意見を頂戴するような法案で、様々なレベルでの調整を目の当たりにすることができたのは貴重な経験です。退職手当担当でも法改正を行い、法制的なノウハウを深めることができました。

2010～2012 総務省行政管理局企画調整課係長

局を総括するポストで部下も2人おり、組織として仕事をすることや部下のマネジメントを意識するようになりました。今までは自分のことだけを考えていればよかったのですが、そうも行かなくなり、とまどいながらも大きなやりがいを得ることができました。

2005～2010 鳥取県総務部市町村振興課 総務省情報流通行政局放送政策課 内閣府公益認定等委員会事務局総務課係長

様々な業務をしながら仕事のいろはを教わった時期です。最初は上司の指示を理解することにも一苦労でしたが、先輩の真似をしてみたり、アドバイスをいただいたりしながら、少しずつできることを増やしていきました。